

科目名	エアラインサービス論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際学科	□ 必修	■ 選択
英文表記	Airline Service	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年		
			開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	よこた けいざぶろう	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	横田 恵三郎	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	まず航空の歴史を紐解き、空港を中心とする航空会社の仕事とそれらを取り巻く様々な機能や仕組みについて基礎知識を得ることが出来る。				
到達目標	航空事業全般の歴史や仕組みについて第三者に対して基礎的な説明が出来るようになると共に将来、空港や旅行会社その他観光関連企業に進むことを想定している学生は必要な基本的な知識が身につく。				
授業概要	航空会社が一便一便の飛行機を安全に快適に飛ばすためにたくさんの人々（機能）が連携して責任をもって業務を遂行しています。法律や規制、国際的な枠組みもあります。それら全体の概観を掴むと共に基礎的な航空専門用語や時刻表、時差等についても学習します。また航空会社の空港責任者による講話の時間を設ける予定であり、空港で提供される様々なサービスについて現場の空気を感じながら学修します。				
授業計画					
第1回	ガイダンス、飛行機はなぜ空を飛ぶことができるのか				
第2回	空を飛ぶ夢を追った人々				
第3回	エアラインサービスとは何か、国際航空の歴史と変遷①				
第4回	国際航空の歴史と変遷②				
第5回	日本の航空輸送の歴史と変遷				
第6回	航空事業の基礎知識(航空法、ICAO、IATA)				
第7回	実務基礎編①(都市・空港コード、エアラインコード)				
第8回	実務基礎編②(航空時刻表の見方、PNR、MCT)				
第9回	実務基礎編③(時差の計算)				
第10回	日本の空港整備の経緯と現状				
第11回	空港サービス①(旅客ハンドリング)				
第12回	空港サービス②(オペレーション、グランドハンドリング)				
第13回	航空会社の空港責任者による講話				
第14回	航空事業の課題と展望				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	業界の特徴として時差や英語を短くした表現(省略形)を理解する必要があるのでその意味を都度復習して覚えて下さい。また航空会社や航空に係わる報道や情報の収集に努めて下さい。(1.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	将来、航空関連の企業・機関に進むことを選択肢の一つとしている学生は履修することが望ましい。				
テキスト	特に定めません。必要な資料はポータルサイトで発信します。				
参考文献・資料	適宜、授業の中で紹介します。				
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢・授業態度 50%として総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	授業終了後に行います。				

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	大学卒業以来35年間日本の大手航空会社に勤務し、その後約4年間は台湾の航空会社に勤務しておりました。またその間、3回計約10年の海外駐在の経験を踏まえてエアラインサービスの醍醐味を説明しかつ海外との関わり大切さを理解できるように講義を進めていきたいと思ひます。
学生へのメッセージ	もし飛行機や航空会社が世の中になければ人・モノの流れが生まれず、日本のみならず世界はここまで発展しなかつたと容易に想像がつきます。グローバル化を支える航空事業の役割は引き続きその重要性を維持するでしょう。まずは航空や航空事業の基礎をしっかりと学びましょう。そして空港には様々な機能(仕事)があつて連携しながら日々の安全・安心で快適な運航を支えています。この授業を履修することにより、空港はじめ航空の仕事に興味を湧いてくるものと期待しています。